

網がどうこうと言っていたから、父の仕事が関係していたのかもしれない。父は黙ってうなだれていた。わたしの長男、大吾は父によく似ている。けんか嫌いである。隔世遺伝はある。星鹿を離れる日、祖母は仏壇を拝んでいた。隠岐までの山陰線から連絡船は遠い道のりであった。にぎり飯と飛び魚の干物の味は忘れられない。隠岐

ではいろいろあった。わたしは映画ばかり見ていた。映画館の暗闇だけが心安らく場所であった。

「ローマの休日」のオードリ  
ー・ヘプバーンの清楚さには心

## 堪えた隠岐の日々

送られた。新橋駅の西口広場の街頭テレビには、2万人の群衆が埋め尽くしたそうである。力道山は戦争でやられたアメ  
リカ人を空手チョップでやつ

かった。言葉にもなじまなかった。地元の子が放つておくわけがない。星鹿には、強い味方の兄貴分がいっぱい  
たが、隠岐には兄貴分がいなかつた。集団でやられたりした。

った。わたしは喜んだ。仲間外れにしていたわたしを、仲間にするというのである。「2千数えて、捜せ」。わたしは律義に2千を数えて捜した。校舎の床や裏の倉庫まで捜したが、だれもいなかった。寒さに震えて帰る道すがら、電気がついた年かきの少年の家を庭から眺めた。年かきの少年は家族と談笑しながら食事をしていた。殺意を自覚した。吹雪の夜、母は松浦へ帰ると父へ訴えた。父は黙っていた。家にも、天井から雪が舞っていた。わたしは寝たふりをしていた。子どもは寝たふりがうまい。

が躍った。だれもが競ってヘプバーンの似顔絵を描いていた。テレビは力道山を連れてやって来た。力道山と木村組は、シャープ兄弟との世界タッグ選手権試合を引き分けた。来週へ続くである。力道山の「空手チョップ」には熱狂的な声援が

転校生。わたしは小生意気で  
小さかしい子どもだった。環境

なにより堪えたのは「隠れん坊」であった。年かきの少年が「おまえを鬼にしてやるだか」とい

は黙っていた。家にも、天井から雪が舞っていた。わたしは寝たふりをしていた。子どもは寝たふりがうまい。



おかへ・こうだい 1979年に「肥前松浦兄妹心中」で岸田戯曲賞を、89年に「理世子」で紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。日本劇作家協会元理事。松浦市で毎年、子供たちにミュージカルを指導している。川崎市在住。70歳。

(松浦市出身)